

憲法が輝く学校と社会のために力を合わせましょう

「戦争は、防衛を名目に始まる」—北海道新聞は 9 月 18 日、戦争法強行から 1 周年の 19 日を前に、この一文で始まる「京大有志声明」を起草した旭川市生まれの藤原辰史さんの講演を取り上げました。「声上げる大切さ生徒に」と題された記事は、前日に行われた道内の私立中学校での講演を取材したもので、ドイツ現代史を専門にする藤原さんが「自身の研究を通じて分かった安保法の危険さに声を上げないのは不誠実と考えた」と思いを語り、「自分の頭で物事を考える」大切さ、学問の意義を訴えた、と報じました。

一方、憲法 9 条を壊し平和主義の原則を投げすてる、戦後かつてない危険な情勢がすすんでいます。8 月 3 日、第 3 次政権発足会見で安倍首相は、憲法改正について「自分の任期中に果たしていきたいと考えるのは当然」と表明し、10 月 23 日に行われた自衛隊観閲式では安保法にもとづく PKO「新任務」付与に言及し、「精強なる自衛隊をつくりあげてほしい」と訓示しました。

憲法尊重擁護の義務を負う私たち教育公務員は、未来を担う子どもたちへの主権者教育を旺盛にすすめるとともに、地域の広範な人びととともに憲法改悪に反対し、「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンを掲げる教職員組合の原点に立った運動に立ち上がることが待ったなしで求められます。

全道の教職員のみなさん

「戦争する国」「世界で企業が一番活動しやすい国」づくりのための人材育成の場に教育を貶めようとする、安倍政権による「教育再生」の企てはとりわけ重大です。

9 月に公表された学習指導要領改訂の「審議のまとめ」は、公民科に“高校版道徳”となる危険性を持つ「公共(仮)」を設置するとともに、「アクティブ・ラーニングを道徳や部活動でも」などとして、教育内容のみならず指導方法や評価のあり方まで管理統制しようというもので看過できないものばかりです。「正答率」を上げるためのテスト対策「加熱」が報じられる全国いっせい学力テストや「高大接続改革」の名による「新テスト」、「グローバル化に備える」小学校からの英語教科科化など、「過度に競争的」とされる現状をさらに深刻化させ、子どもや教職員の負担をいっそう増やすことにならないか、懸念が広がります。

広がる子どもの貧困に目をつぶり、競争と格差を広げる教育「改革」に反対し、教育の自由を守り、「子どもたちが人間として大切にされる学校と社会を」のスローガンのもと、保護者、地域との合意にもとづく民主教育の前進へ、地域からのたたかいと教育実践に、すべての職場からとりくみましょう。

全道の教職員のみなさん

高教組、道教組が今夏行った「全道教職員職場要求アンケート」には、長時間過密労働に追われる学校現場の実態や、それらを早急に解決してほしいという切実な要求が寄せられました。11 月 2 日からは人事委員会勧告をうけての賃金交渉も始まります。子どもたち、教職員の笑顔あふれる学校にするため、今こそ力を合わせましょう。未組合員のみなさんの高教組への加入を心から訴えます。

全道の教職員のみなさん

TPP 批准をめぐる緊迫する国会や沖縄・高江の米軍ヘリパッド建設工事、南スーダン PKO 部隊への「新任務」付与などをめぐる状況は、国民無視、憲法破壊のアベ政治転換がまったく猶予ならないことを示しています。たたかいはここからです。参院選において劇的に前進した野党と市民の共闘が、「早期解散」が取りざたされる総選挙でも前進するなら、現在改憲勢力が 3 分の 2 を占める衆議院の議席をとりもどすことができます。

今こそ私たちは日本国憲法に込められた願いや努力を子どもたちとともに真摯に学び直し、主権者となる子どもたちに歴史の真実を伝え、憲法が輝く学校と社会にするために、ともに力を合わせましょう。